

特別企画!
さいレンジャーに聞く
おすすめの本

青少年宇宙科学館で科学の面白さをわかりやすく教えてくれる「科学戦隊 さいレンジャー」。今回はそんな頭脳派のみなさんにおすすめの本を聞いてみました。

レッド
『思惟する天文学 ー宇宙の公案を解くー』
佐藤勝彦^{さとうかつひこ}著 新日本出版社 2013年
おすすめポイント

「宇宙とは何か？」と問われると、ものすごく難しく考えるかもしれません。現在、天文学者たちは様々な視点で研究を進めています。未知の世界に挑もうとする天文学者たちの情熱を感じられる1冊です。
ぜひご一読を!

ブルー
『進路を自分で決められる子どもに育てよう
宇宙飛行士若田光一・成長の記録』
若田タカヨ^{わかた たかよ}著 講談社 2011年
おすすめポイント

若田宇宙飛行士を育てたお母様の本です。どの子ども、「その子だけの芽」を持っていると言います。お母様は、どのようにして「若田宇宙飛行士の芽」を見つけ、育み、伸ばしていったのでしょうか。

シルバー
『おはなし天文学』1～4
斉田博^{さいとうひろし}著 地人書館 2000年
おすすめポイント

星に関しての興味深いエピソードと、それに関わってきた人々の熱い人間ドラマが詰まった本。天王星や海王星がどのようにして見つかったかなど、教科書には載っていないおもしろい話が盛りだくさん。星空を見上げるのが楽しくなる一冊です。

イエロー
『宇宙で過ごした137日 僕の「きぼう」滞在記』
若田光一^{わかた ひろかず}著 朝日新聞出版 2009年
おすすめポイント

「夢」「探究心」「思いやり」の想いを胸に宇宙でのミッションを成功させた若田宇宙飛行士から、子どもたちに向けたメッセージがたくさん詰まっている一冊です。

グリーン
『人類が生まれるための12の偶然』
岩波ジュニア新書
眞淳平^{まこと じゅんぺい}著 岩波書店 2009年
おすすめポイント

人類はどのようにして誕生したのでしょうか。それには宇宙や地球の誕生、生命の発生、人類の進化と続く一連の過程のなかで起きた「12の偶然」が関わってきます。その「偶然」のうちどれか一つでも欠けていたら、私たちは存在していないかもしれません。地球は宇宙で生命が存在する唯一の星であると思えてきます。この1冊で、宇宙の成り立ちや生物の進化について詳しく知ることができます。

ダーク
『主役はダーク 宇宙究極の謎に迫る』
須藤靖^{すとう やすし}著 毎日新聞社 2013年
おすすめポイント

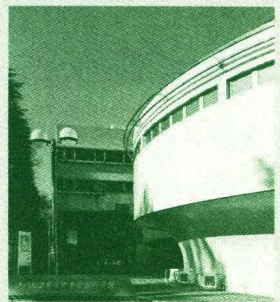
「宇宙には端っこがあるのだろうか?」「宇宙の外はどうなっているのだろうか?」「『ダーク・マター』や『ダーク・エネルギー』ってなんだろう?」「宇宙人との付き合い方って?」宇宙への疑問を夢やユーモアを交えて解説します。

フチイエロー
『ギリシア神話 オリンポスの神々』
講談社青い鳥文庫
遠藤寛子^{えんどうひろこ}文 講談社 2011年
おすすめポイント

ギリシア神話に興味があるけれど、「難しそうだなあ」と思っている方におすすめです。神話に出てくる神々の紹介もあり、とてもわかりやすくなっています。親子で楽しめる1冊です。

◇ ◇ ◇
今年、若田さんが地球に帰還し、小惑星探査機「はやぶさ2」の打ち上げが予定されています。宇宙への関心が高まる今、楽しみながら学ぶことができる青少年宇宙科学館に足を運び、宇宙をより身近に感じてみてはいかがでしょうか。さいレンジャーが皆さんのお越しをお待ちしています!

さいたま市青少年宇宙科学館
〒330-0051 さいたま市浦和区駒場2-3-45
TEL: 048-881-1515 FAX: 048-882-9702
入館: 無料
入場料(プラネタリウム): 大人500円(4月1日より510円)、小人200円(4歳~高校生)
ホームページ <http://www.kagakukan.urawa.saitama.jp/main.html>



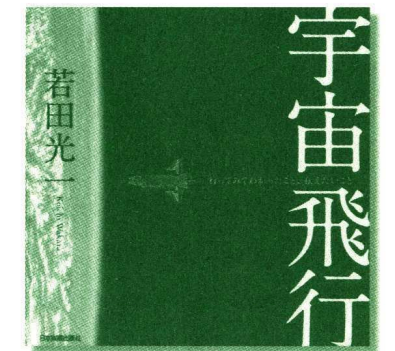
**本棚
ぶらり**

『宇宙飛行 行ってみてわかったこと、
伝えたかったこと』

若田光一^{わかた ひろかず}著 日本実業出版社 2011年

この本のはじめで、若田さんは、『宇宙に出て感じるのは、「地球は美しい」という、言葉にすれば非常に月並みですが、言葉では言い表せないほどの感動を与えてくれる「圧倒的な地球の存在感」と「広大な宇宙に対する畏怖の念」です』と語っています。

若田さんの宇宙への思いは、これまでの宇宙飛行時に撮影した写真とともに、宇宙に関する様々な質問に対する答えとして綴られています。「宇宙でのストレス解消法は?」という質問への回答の中で、



お子さんが折った折り紙の手裏剣を国際宇宙ステーションで飛ばしてみせたというエピソードがあり、若田さんの人となりを感じることができます。

各章の終わりには、これまで若田さんを支えてくれたいくつかの先人の言葉も掲載してあります。表紙を開くと、「夢・探究心・思いやり」と若田さんがサインしたボールが宇宙空間に浮かんでいる写真が目に入り込みます。この言葉も、誰かの心の支えになるのではないのでしょうか。

大人も楽しめる
絵本の世界 第6回



「絵本は大人が子どもに読んであげること前提に創られている」とよく言われます。でも「大人になってからの方が楽しめるのでは?」と思えるような本も少なくありません。

例えば、『おおきな木』(シエル・シルヴァスタイン作(篠崎書林))は、幼い子に無私の施しをする木が主人公の切ない話です。子どもたちは夢中になって聞いてくれますが、大人が読むことによって新たな発見があり、より一層楽しむことができます。

他にも、『ぶたばあちゃん』(マーガレット・ワイ

ルド文 ロン・ブルックス^{ロン・ブルックス}絵(あすなろ書房))、『リリ』(はらだゆうこ作・絵(BL出版))のような身近な存在の死を描いた作品や、いじめの問題を取り上げた『あの子』(ひぐちともこ作・絵(解放出版社))といった重いテーマを扱った絵本もあります。

やはり絵本にもTPOはあるのです。時と場合に合わせて選ぶとさらなる楽しみが広がります。大人のたしなみとして、頭の片隅に入れておいてはいかがでしょうか。